



しずおか愛護

No.35 (平成 31 年 3 月 20 日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



=巻頭言=

今年は昨年よりは暖かな幕開け、そして穏やかな日が続き、しもやけに悩まされる私としては大変ありがたいことです。

昨年から今年にかけて「平成最後の」という言葉をよく耳にします。これまであまり気にはきませんでした。いつの間にかやら平成で生きた時間が昭和で生きた時間を追い越していたことに驚いています。と同時に自然がもたらす災害にも様変わりがみられています。時代の移り変わりと複雑に変わる制度の変化についていけているのかと心配になります。

大きく仕組みが変わることに気を取られがちになりますが、身近に起こる事件やインフルエンザなどの流行にも備え、迅速な対応をしていかなければなりません。そのように日々目まぐるしい中、協会の中で総務を担当させていただいており、大役を仰せつかっております。

なんといっても目玉は、運営検討委員会と第 56 回東海地区職員研究協議会の実行委員です。どの仕事をとっても事務局の皆様と役員の方々に助けてもらわなければ、進まないことばかりです。今までは一参加者としての関わりでしたが、会の企画と運営にはなかなかのやりがいと不安を同居させながら、試行錯誤で進めているところであります。これらの役割と経験をせっかくの機会ととらえ、日々の業務に活かされるよう体内で消化し吸収・発酵していくつもりであります。

具体的には、外からの指摘を素直に受け止めること。そして若い人の意見に耳を傾けること。このどちらも大切にしていくことです。また、目の前の利用者さんの支援はもちろんのこと、地域でのネットワークづくり。そして未来に希望をもてるような仕組みづくりも大切であろうと考えます。この三つを形にしていくためには、諸先輩方からの温かなご指導と若い人の柔軟な意見を取り入れ、より良い物にしていければと考えております。さしあたり第 56 回東海地区職員研究協議会では多くの若い職員さんがこの静岡県に集うことになるよう、参加者にとってより良い研究協議会となるように準備を進めていきたいと思っております。

まだまだ至らないところばかりではありますが、協会の皆様からのお力添えをいただけますよう今後とも宜しく願いいたします。



静岡県知的障害者福祉協会
副会長 家込久志 (ほっと)

平成 30 年度

第 27 回愛護ギャラリー展について

文化担当理事 中村文久
(障害者就業・生活支援センターさつき)

12月13日(木)開会式を行い、17日(月)までの5日間にわたって第27回愛護ギャラリー展を開催しました。

今回は、フリー部門も含め332点の展覧があり、金賞9点、銀賞21点、銅賞15点、奨励賞は63点に表彰状が贈られました。5日間の来場者846名でしたが、一般の方の入場者は今回も少ないようでした。

今回は、審査員の顔ぶれを一新し、新たな時代に入ったと言えると思います。大きな作品に目が行きがちですが、小作品にもスポットが当たったように感じました。

企画、準備段階から実行委員の方々には、通常の勤務の傍ら何回も集まっていただき苦勞をおかけしました。経験者も多く、搬入から飾りつけ、搬出まで段取りよく進められました。おかげでトラブルもなく無事に開催できたことを感謝申し上げます。今後は、この経験を若い方々にどう継承していくかが課題です。

来年(2020年)は、東京オリンピック・パラリンピック開催の年でもあり、障がい者の芸術活動が一層注目を集める年になります。たまたまでしょうが、この年は今まで会場として使用していたグランシップが使用できません。今までとは違う「愛護ギャラリー展」を考える良い機会と捉え、関係する方々からいろいろなアイデアを頂戴したいと考えています。

絵画の部

県知事賞



エイブル富岳「ナンデライオン」

静岡市長賞



菊川寮「フクロウの森」

県福祉協会会長賞

あさぎり
「プレミアム夜行列車」



工芸の部

県知事賞



富岳の郷「野生」

静岡市長賞



あさぎり「ぼくのヒーローズ」

県福祉協会長賞



あさぎり「株式会社タコバス」

陶芸の部

県知事賞



菊川寮「アツロウステーション」

静岡市長賞



富岳の郷「いばら姫」

県福祉協会長賞



富岳の園「花器」

第27回 ふれあい交歓会(就労自立者激励会)

地域支援部会長
(クララ寮) 高木徳雄

日時 平成30年11月18日(日) 10:30~14:00

場所 クーポール会館(静岡市葵区)

参加者数 33名(利用者26名 引率者7名)

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1 開会の言葉 | 静岡県知的障害者福祉協会 副会長 滝口 裕二 |
| 2 主催者挨拶 | 静岡県知的障害者福祉協会 会長 池谷 修 |
| 3 永年勤続表彰 | 鈴木佳明(コミュート浮島) |
| 4 来賓祝辞 | 静岡県手をつなぐ育成会 副会長 中村 章次 |
| 5 グループワーク | |
| 進行 | 社会福祉法人草笛の会
アフターケアセンターくさぶえ 大塚 信乃 |
| 6 交流会-昼食会-カラオケ大会 | |
| 司会 | 社会福祉法人明和会 オランヂ 矢代 啓 |
| カラオケ大会協力 | ヒマナスターズ様 |
| 7 閉会の言葉 | 静岡県知的障害者福祉協会 副会長 天良 昭彦 |

(※敬称略)

第27回ふれあい交歓会が11月18日(日)、静岡市内のクーポール会館で行われました。グループホームを利用されて就労している方を対象に、利用者さん27名、職員7名が会し、式典と共に昼食会、交流会を共に楽しみました。

交流会では「グループワーク」を実施し、これからの活力などにつなげていくことを意図して「今考えていること」をそれぞれに語り合いました。内容は、お仕事のことで「ケガに気をつけて」、「言われたことを守って」、など頑張っている姿勢を、また、休みの日に



したいことなど、自由な発言の中にしっかりした意思が感じられる内容でした。

また、交流会では今回、静岡市番町市民活動センターを拠点に活動されているバンドグループ「ヒマナスターズ」さんのご協力が得られ、恒例のカラオケ大会を生演奏によるカラオケとして企画しました。生演奏に合わせての歌唱は今一つ慣れなくて、戸惑う部分も垣間見られましたが、地域の方との触れ合いの機会としては有意義な機会になったのではないかと思います。

この交歓会が、日常生活における数ある楽しみの中の一つとして多くの方の参加を得られるよう、また次回に向けた準備をしていきます。



平成30年度 施設長等研修会報告

事務局 青野剛明

平成31年1月24日～25日に、平成30年度施設長等研修会が沼津市のホテル沼津キャッスルを会場に開催されました。全国的にインフルエンザが猛威を振るっている時期にも拘わらず、109名の参加を得て盛会の中で終了することができました。

開催に際しては、各部会長をはじめ、多くの会員施設の皆様にご参加、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

研修1日目は、午後1時30分から分科会に分かれて活発な意見交換が行われました。分科会終了後には交流会が行われ、和やかな雰囲気の中で、有意義な情報交換の場となりました。

2日目は、まず、浜松学院大学短期大学部の志村浩二准教授から、「脳が誤作動を起こすとき～トラウマ・愛着障害・そして強度行動障害～」と題して講演していただきました。出席者に前に出てもらい、寸劇風にトラウマや愛着障害がどうして生じるかを大変分かりやすくお話していただきました。



その後、行政説明で静岡県障害者政策課障害者政策班の上原班長から、ふじのくに障害者しあわせプランを基に今後の県の障害者福祉施策について説明がありました。また、社会福祉施設の防犯対策について、公益財団法人日本防災通信協会静岡県支部の杉本氏から施設における防犯のポイントについてDVDを見ながら説明していただきました。

最後に、分科会での協議状況について報告があり、2日間を通して内容の濃い研修会となりました。

Ⅱ 分科会報告

【 第1分科会 児童発達支援部会 】

三方原スクエア児童部 出水巖夫

テーマ「多様化、複雑化する児童の課題にどう対応するか」 (参加者 15名)

始めに参加者より各事業所の近況報告を行った後、部会長より次年度に向けた障害児支援施策の動向に関する情報提供が行われた。続いて実践発表として、入所からは社会福祉法人明光会 安倍学園の内藤洋子氏より「安倍学園におけるハートハートプロジェクト (性教育)」と題して発表がありました。愛着課題のある児童の性の問題について、知識の習得や視覚支援、助けを呼ぶ練習、ライフプランや命の大切さを一緒に考える等、様々な具体的実践が報告されました。次に、通園からは富士市立こども療育センターみはら園の赤池多恵氏より「外国籍家庭への支援について」の発表があり、外国籍児の利用が増加する中で保護者に対しても言葉・文化・宗教等への対応が必要となるが、事業所での工夫のみならず行政や教育委員会など他機関との協力も必要であるとの意見も出されました。近年の児童や家庭が抱える様々な課題に対する貴重な情報を基に、活発な意見交換が行われた有意義な分科会となりました。

【 第2分科会 障害者支援施設部会 】

さしだ希望の里 三田充彦

障害者支援施設部会では、『働き方改革・労務管理』について、みはらしの丘竹本施設長より、働き方改革関連法案改正の主なポイントを説明していただきました。1点目は、長時間労働の是正、特に残業時間の上限規制についての説明がありました。また、有給休暇取得に関しても、一定日数の取得が義務付けられ、いずれも違反した場合は罰則規定があるとのことでした。2点目として、雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保が求められ、同一労働、同一賃金についてのガイドラインが示されました。今後、就業規則、給与規程等の見直しが必要となってきますが、職員への納得のいく説明が必要であり、事業主のバランス感覚が大切になっていくとの意見をいただきました。

次に、四季の郷袴田施設長より、『高齢利用者への対応』ということで、事例を挙げ、施設から、特養移行までの経過についての発表をしていただき、各施設の移行に至るまでの考え方等について意見交換がなされました。

次に、同じく袴田施設長より、危機管理・防災担当理事として、①災害に強い施設づくりへの支援 ②2つの見守り・助け合いのネットワークづくりという協会としての取り組みの柱についての説明がありました。

最後に、人材確保・人材育成についての情報交換を行いました。やはりどの施設も非常に苦労されている様子が伺えましたが、そんな中、福祉人材センターからの話として、SNS、HPなどを活用し、職員の笑顔等の掲載、まめな更新などが大切であるとの話や、自衛隊連合局からの斡旋の情報など、参考になりそうな情報も聞け、有意義な分科会であったと思います



【 第3分科会 日中活動支援部会 】

ほっと 家込久志

第3分科会では、2施設による事例報告とミルキーウェイ原施設長による情報提供が行われました。

「求められていく日中の活動の場について考える」という事例で、まず、ヴィヴァーチェあしくぼによる作業提供の取り組みが発表されました。活動に作業を行ってほしいという利用者・保護者の希望を把握し、委託作業に頼らず、自主製品の製造を取り入れたことで、それぞれの利用者に合った作業工程が提供できるようになり、作業工賃も向上させられることができた。また、かがやきでは、利用者の実態をデータで把握、その上で提供するサービスの量や質についても利用者評価、支援者評価を複数の尺度を使用して分析していることがチャートを使って発表されました。支援の質を高めるための具体的な取り組みが示されました。いずれの発表も先駆的で大きな刺激となり、発表終了後も多くの方に囲まれ質問や助言を求められている場面が見受けられました。情報提供は国の動向も踏まえた中央情勢の報告がなされました。

【 第4分科会 生産活動・就労支援部会 】

掛川工房つつじ 滝口 裕二

第4分科会では、10月より消費税が8%から10%へと引き上げられることから、各施設の対応についての意見が出されました。ほとんどの事業所から、どの様に価格改定についてお知らせしていくのか、またどのタイミングで価格を切り替えていくか等の対応については検討中との意見が出されました。また価格表示についても「税込み・税抜き」と様々ですが、比較的税抜き価格表示の方が消費税に対して買い手となる側の意識が高い為、価格+税がかかるということは何の違和感も持たれないようだ等の意見が聞かれました。また「働き方改革」のテーマから、各施設における時間外勤務の現状を聞くことや人材確保、人材育成について何処も苦慮していることがうかがえました。加えて「年休取得」の件に関しても、現場の職員配置や職員確保に悲鳴を上げている中、追い打ちがかかってくると思いますが、事業所側も職員の働きやすい職場作りという事が職員確保に繋がって行くということであれば、これらも含め運営体制の見直しについても早急に考えていかないといけない等との話があり、有意義な分科会になりました。

【 第5分科会 地域支援部会 】

クララ寮 高木徳雄

テーマ「利用者の意思決定支援について」
「諸課題」（ふれあい交歓会について）

「利用者の意思決定支援について」のテーマでは、各事業所での取り組みと現状から、抱える課題等について提起していただき、情報交換の場としました。

内容として、人材不足の現状と確保に向けた取り組み、高齢利用者の支援の現状と今後の見通し、住居修繕に絡んだ課題などの他、利用料の滞納、本人が望む生活と自立度とのギャップが大きく支援が困難等の事例の提起もあり、様々な意見や情報交換ができました。

「諸課題」では、「ふれあい交歓会」の次年度の開催に向けた方向性を協議しました。ここ数年、参加者の減少が課題とされ、今年度行なったアンケート調査の結果報告をもとに、参加者枠を就労A、Bを利用する方に広げる等試みましたが、結果に繋がりませんでした。

参加される方は、年に一度のこの機会をととても楽しみにされています。本会議では、改めて参加者負担金、交流会の内容、開催場所について再検討しながら計画していくこととしました。

【 第6分科会 相談支援部会 】

障害者就業・生活支援センターさつき 中村 文久

- 開催日：平成31年1月24日（木）午後1時30分～午後5時
- 会場：ホテル沼津キャッスル
- 参加人数：8名（東部2名、中部2名、西部4名）
- 内容
 - ・相談支援 全国の動向についての報告
セルフ率、相談支援専門員の研修見直し、質の高い相談支援事業所を目指す方向
 - ・各地域からの状況報告
東、中、西の出席者から地域の状況について報告
 - ・相談支援部会の意義
出席者からの報告、意見の主なものは次のとおり。
 - ・磐田・袋井地区はセルフプランなし。100%計画相談。モニタリング期間もすでに3か月で行っている。収入は上がるが業務量も多くなる。
 - ・掛川はセルフプランが多い。相談支援専門員は増えている。基幹相談支援事業所、地域自立支援協議会、緊急の対応等に課題がある。
 - ・御殿場は基幹を作らないかわりに委託費をアップしている。事業所数は者、児それぞれ1か所ずつ増えたが受けて貰えないケースがある。もともとある事業所は頼まれたらやるしかないを受けている。そのような事業所に重いケースが集まってしまう。
相談支援の質の担保に課題がある。
モニタリングは現在の6か月でもやりおおせない。
 - ・沼津は、セルフ率が者で54%。基幹はなく毎日市内の5センターから職員が2名出て、市役所で相談対応をしている。市との仕事整理（窓口対応、夜間、緊急対応）が課題。
 - ・静岡市は絶対的に事業所数が足りない。そのうえ担当者数に偏りがある。相談支援専門員の疲弊が顕著である。
 - ・圏域には放課後等デイサービスや就A事業所の問題、直Bアセスメント等の課題が山積している。
 - ・訪問や作成の効率を高めるための工夫（タブレットの導入等）をしている事業所もある。
 - ・相談支援部会の際は、圏域内で得られない情報の共有ができる場である。施設長だけでなく現場の担当者が参加できるようになると良い。

= 専門委員会・部会報告 =**○事務部会**

事務部会担当 鈴木善道

当法人が3年前より静岡県予防医学協会様の協力のもとストレスチェックを行っていることもあり、各人が抱えるストレスに対してどのように対処したらよいかを悩んでいる方も多くいるのではと考え、研修テーマにすることにしました。心の声のきき方、働く人のメンタルヘルスという内容は、25名の参加者の関心を引き、ストレスの解釈・原因等表面だけではなく、意識の奥の自己を知る講義は、とても参考になりました。

そして、ポジティブ・メンタルヘルスを進めることができることにより、日々の支援・仕事が

より良いものに発展していくことを学びました。また、個人ワークをすることで、講義を現実化することができ、より深く自己の気づきをし、今後の生かし方も知る事が出来ました。

講義後のアンケートでは各職場・施設で生かしたいとの意見を多くいただき、充実した時間を過ごすことができました。

○栄養部会報告

栄養部会担当 江森静子

今年度の栄養部会では、静岡医療センター児童部言語聴覚士の夏目孝子氏を迎えて「幼児期から生涯のライフステージに応じた喜びのある食事とは」と題してお話し頂きました。

食事の目的は、栄養摂取はもとより口腔運動の発達、豊かな食経験、そして味覚文化の継承であり、人生に大きく関与する重要な活動であることを再確認しました。

また、障がいの特性や運動発達の状況、嗜好などを多角的に判断し、個人の口腔機能に合わせた食形態、介助の仕方など、多様な食事指導が重要であることを学びました。

さらに、これらは幼児期から発達段階に合った丁寧な支援、「その人の人生の中で出来るときに適切な食事支援をする」ことが生涯にわたる豊かな食生活の基礎となることも理解することができました。

実際におやつを介助されて食べる体験をしながら、驚きや笑いも多い、大変楽しい研修でした。後半のグループ討議では、日頃困っていることなどの相談や災害時の非常食対策等の広範囲にわたる情報交換が活発に行われ、学びの多い有意義な研究集会となりました

○保健・医療部会

クララ寮 高木徳雄

今年度の保健・医療部会研究集会では、「看護師と生活支援員（支援スタッフ）との連携」に注目してテーマを掲げました。研究集会に先立ち、「保健医療に関するアンケート調査」として保健医療に関する実態として抱えている課題や取り組みなどを調査しました。

当日は、各事業所における看護医療面に係る支援について、前半はパネルディスカッション形式での課題等を掘り下げ、後半はアンケート調査の結果についての報告とグループワークでそれぞれの意見等を交し合いました。

パネルディスカッションでは、根洗寮（工房めい）、浜名学園、磐田学園の事業所よりテーマに即した形で発表をお願いし、看護師の立場から提起していただいた課題等を後半のグループワークにつなぎました。

後半冒頭に、事前調査したアンケートの結果について報告し、現場の声として検討資料として共有しつつ、グループワークに移りました。

グループワークは7グループに分かれて実施しました。看護師と生活支援員との役割分担、感染症対策、誤薬事故防止対策、入院や通院支援等、高齢者支援など、幅の広い看護医療分野における支援についての「今」を再確認し、「これから」をどう見据えていくか、より連携が求められる上での多くの情報交換の場となりました。

《編集後記》

昨今のはやりの言葉で言うと、『平成最後の』しずおか愛護の発行です。年度末の本当にお忙しい中、原稿を寄せて頂いた方々に心よりお礼申し上げます。来年度の最初の発行は、7月を予定しております。新しい元号は、何になるのか。平成に変わった時と同じように、すぐにしっくりくるんでしょうね。

『平成最後のしずおか愛護』 No.35 お届けします。引き続き来年度も、皆様方のご協力、よろしくお願い致します。
(広報担当 三田充彦)